

千葉うみさとライン (花見川サイクリングコース) サインガイドライン 概要版



千葉市

本ガイドライン策定の主旨

千葉市・八千代市・佐倉市の3市では、官民連携で東京湾と印旛沼をつなぐ花見川・新川流域一帯の魅力を高める取組みとして「千葉うみさとライン※」プロジェクトを令和6年に始動しました。同時に、沿川では水辺の拠点整備等を進めるための「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」が動き出し、花島公園などの水辺の拠点における社会実験の実施や空間の整備が進むなど、花見川から印旛沼にかけて、行政3市と民間が連携した新しい交流およびマイクロツーリズムの基盤が築かれつつあります。

また、千葉市では暮らしの中に自転車の利用を取り入れてもらうことを目指し、「千葉市自転車を活用したまちづくり推進計画」を策定し、各種取組を進めています。本推進計画に基づき、自転車走行環境の整備計画である「ちばチャリ・すいすいプラン」を定め、各区にサイクリングコースの設定をしており、中でも花見川サイクリングコースは市を代表するコースとして、日常利用からツーリングまで幅広い層に利用されています。

本ガイドラインは「千葉うみさとライン」の重要な構成要素である、花見川から印旛沼までのサイクリングコースおよびその周辺の統一的なサインの基本方針、デザイン・標準仕様および今後の運用体制を明確化することを目的に策定するものです。

※ 千葉うみさとラインとは

千葉うみさとラインとは、東京湾(千葉市美浜区磯辺地先)から西印旛沼(佐倉ふるさと広場周辺)までの花見川、新川、西印旛沼周辺エリアのことです。東京湾と印旛沼をつなぐ花見川・新川流域一帯を「自然と暮らしが融合する大きな遊び場」と見立て、民間と行政が協働し、四季を感じる魅力的な取組みを発信していくブランディング活動を行っています。

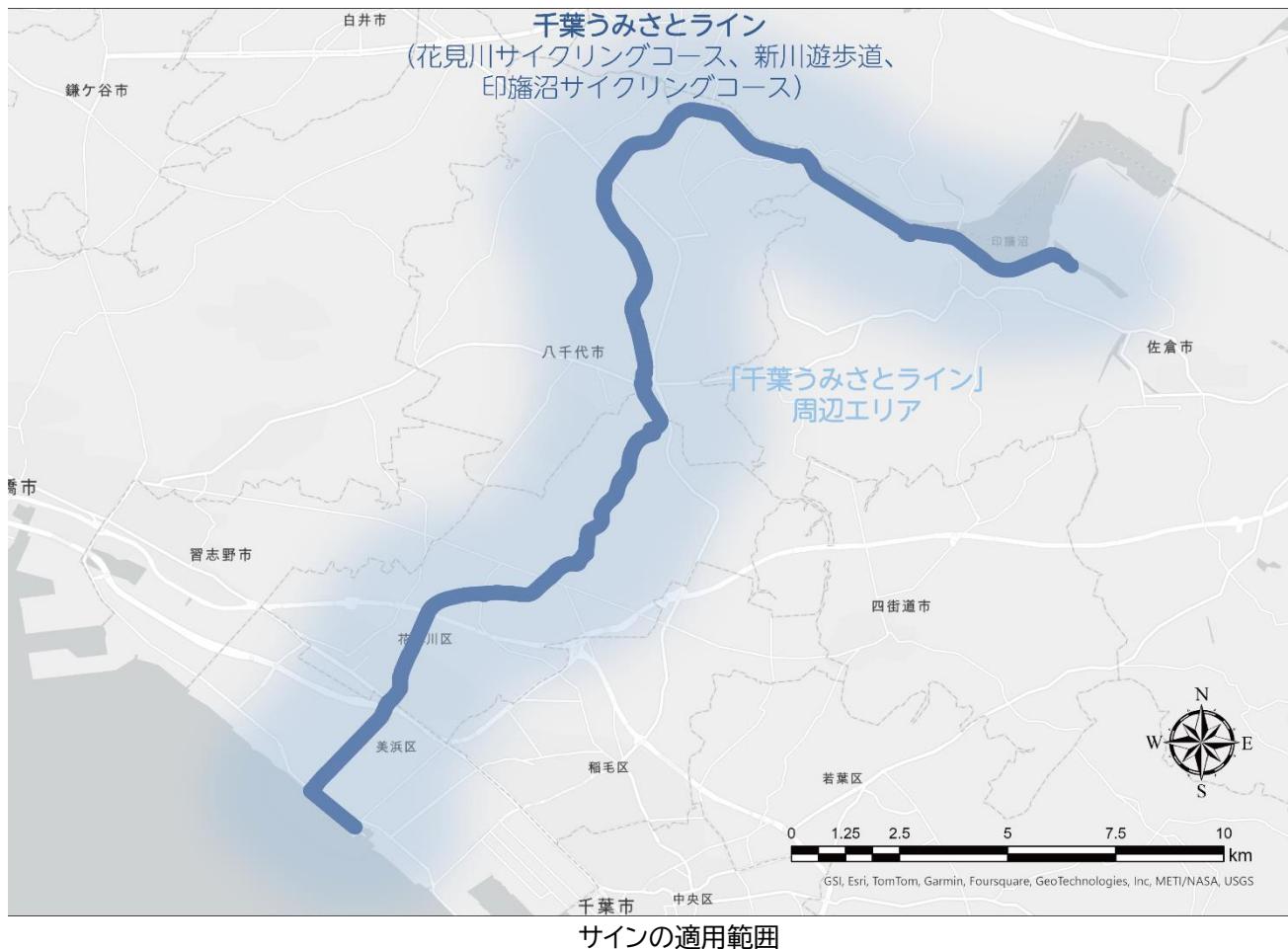
将来的には、北印旛沼および利根川までのエリア拡大を見据えて、活動を行っています。



本ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインにて定めるサインの適用範囲を以下のとおり「千葉うみさとライン」周辺エリアとして設定します。

適用範囲内の対象サインについては、新設および更新を行う際に、本ガイドラインに則って設置することを原則とします。ただし、法令に基づいて設置管理するサインや、特定の施設や区域を対象に独自の基準によって整備されるサインはこの限りではありません。



ガイドラインにおける対象サインと適用範囲

対象となるサイン	適用範囲
総合案内板	うみさとライン周辺エリア※1
案内誘導板	うみさとライン周辺エリア※1
分岐板	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
距離標・境界標	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
解説板	うみさとライン周辺エリア※1
規制板	花見川から印旛沼までのサイクリングコース
路面標示	花見川から印旛沼までのサイクリングコース

※1 千葉うみさとラインとの関連を示すサインに限る

サイクリングコースの目指すビジョン

「千葉うみさとライン」の重要な構成要素である花見川から印旛沼までのサイクリングコースのサイン整備にあたり、コースおよび沿線地域が今後どのような場所を目指していくのがよいか、共通認識となるビジョンを以下の通り定めています。

位置づけ

日常利用

- ・地域住民が通勤・通学や散歩・サイクリングなどで利用する生活用道路

3市を繋ぐ軸線

- ・東京湾から印旛沼まで、花見川・新川に沿って3市が繋がっていることを意識させる
最も重要な軸線

観光資源

- ・川を眺めたり移り変わる風景を楽しんだりできる1つの観光資源

目指していくコースの姿

誰もが安全に
利用できる
コース

- ・生活用道路として住民に寄り添い、安全で安心して利用でき、適切なマナーが定められた誰にでも優しいコース
- ・地元の住民も、集まった自転車愛好家も、だれもが快適に利用でき、走っていて楽しく魅力が感じられるコース(滞留空間整備も含む)

うみさとエリア
全体に交流が
波及するコース

- ・30km もの区間ほぼ平坦な道のりで水辺を走る他にはない特徴を生かして、将来的に余暇で楽しむ自転車愛好家のポタリング需要もより多く取り入れるコース(利根川・手賀沼等の周辺地域への派生・連携も視野に)
- ・コース利用者がつい沿道施設、周辺施設に寄り道したくなるような、うみさとエリア全体に交流が波及するコース

かわとまちの
魅力や風景が
感じられるコース

- ・地域ごとの特徴や魅力をより強調しつつ、コース全体の統一感があるコース
- ・川や水に密着した生活の習わしや季節の移ろい、季節ごとの催しを感じられるコース(うみさとラインを活かしたトライアスロンができるかも)

サイン整備の基本方針

エリアプランディングを進めているうみさとエリアにとって、3市共通のサインの整備は、「千葉うみさとライン」のエリア内外に魅力を伝え、官民連携を推進し、エリアとしての価値を向上させていく基盤となります。

このことを踏まえ、前述のエリアの特性や現状・課題、目指すビジョンより、快適な利用環境の創出は当然のこと、“プランディング”や“回遊性の向上”も重要な要素と位置づけ、それぞれの前提のもとで、計画策定に係る3つの基本方針を定めています。

01

快適な利用環境の創出に資するサイン

前提

サイクリングコースの安心・安全や利用しやすさの面で、**利用者・管理者それぞれの立場での課題**がある。

基本方針

国籍、障がいの有無などを問わず、**誰もが安心して快適にコースを利用できる一助となるサイン**とすることで、「うみさと」の基盤の強化を図る。

02

回遊性の向上に資するサイン

前提

川沿いおよびコース沿道約2km圏内(自転車で10分程度)に連なる形で**複数の地域資源が点在**している。

基本方針

目的を持ってコースを利用する人々に対して、**目的外の場所への寄り道を案内・誘導し交流を増加させるサイン**とすることで、エリア全体の価値向上を図る。

03

プランディングに資するサイン

前提

「うみさと」では花見川・新川流域一帯を**自然と暮らしが融合する大きな遊び場**と見立てて**プランディング活動**を実施している。

基本方針

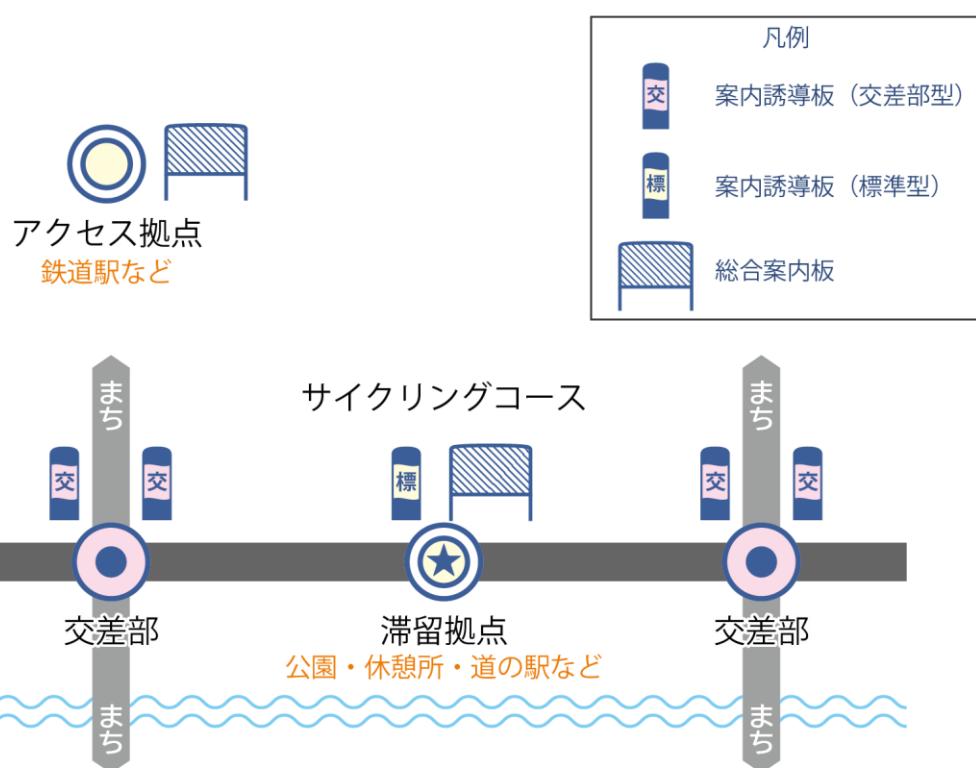
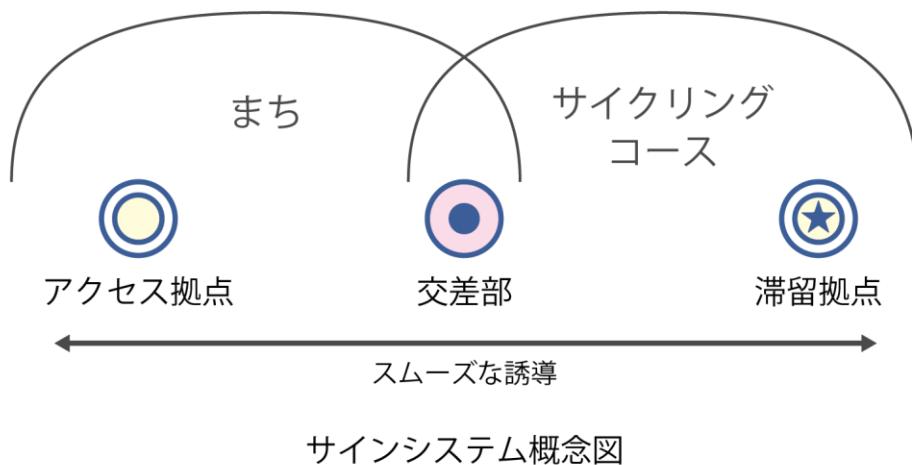
特徴的な資源を生かし、**自転車で行ける範囲にも魅力的で楽しい遊び場があることを演出するサイン**とすることで、地域住民のシビックプライドの醸成、QOL向上を図る。

千葉うみさとラインを印象付ける、洗練されたデザインを採用する。

ビジョン達成に向けたサインの役割～サインシステムの導入～

目指すビジョンの達成に向け、利用者にとってわかりやすく、ストレスなく導かれるよう一連のサインを体系的に整備するサインシステムを導入します。まちから交差部を介してサイクリングコースへと、スムーズに誘導します。

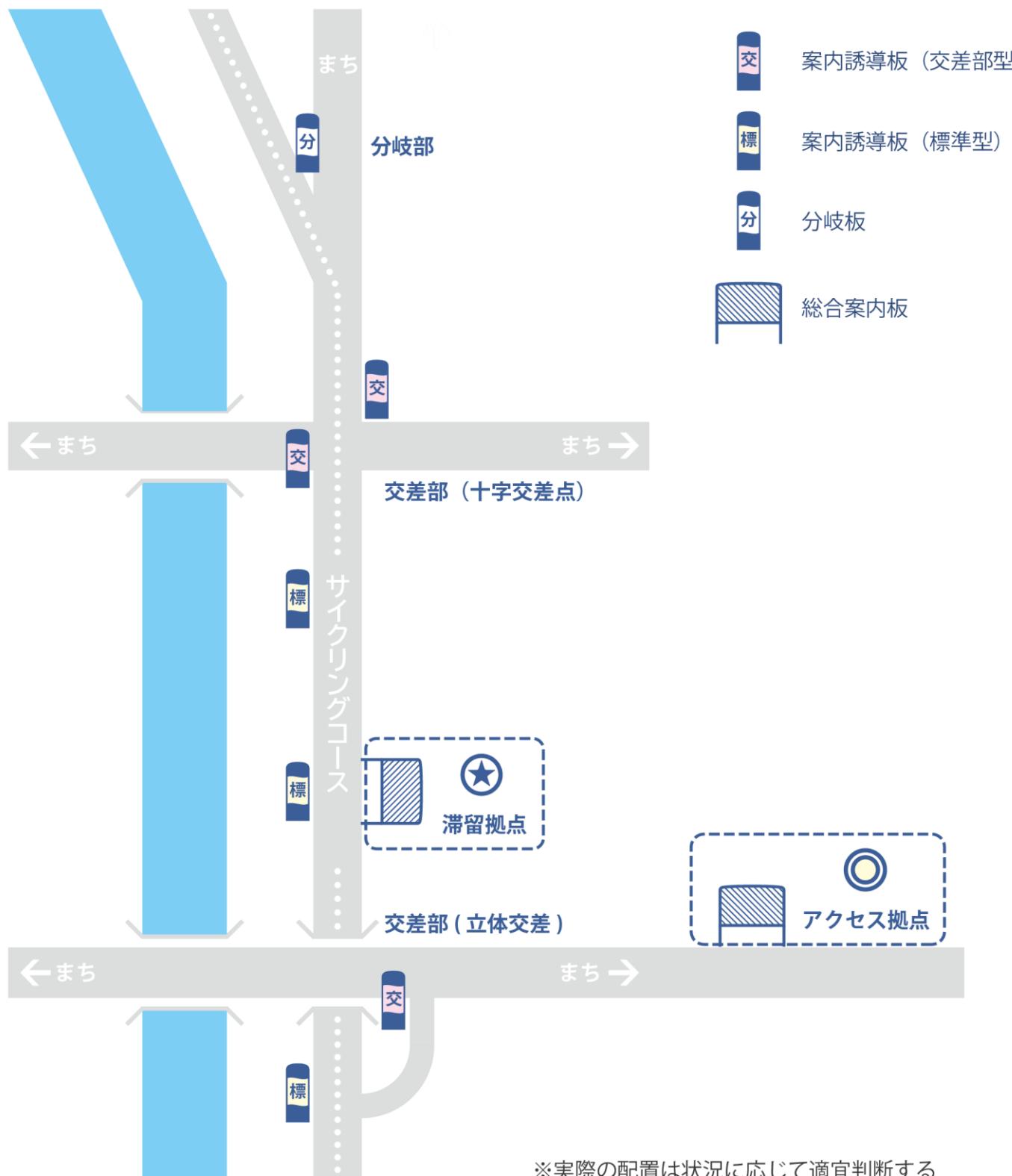
交差部と滞留拠点をサイクリングコースの誘導ポイントと位置づけ、案内誘導板と総合案内板を基軸に、コースの入口や分岐点を分かりやすく示し、コースの全体像や現在地が把握できるサインシステムとしていきます。



各サインの役割、標準仕様、配置の考え方を設定し、「千葉うみさとライン」として三市統一のサインシステムを構築します。(各サインのデザインや標準仕様の詳細は第4章参照)

誘導の基軸となるサイン	案内誘導板(交差部型・標準型)	総合案内板		
	現在地点名の表示 次の誘導ポイント等の案内 注意喚起表示等	コース全体や広域の案内 現在地の図示および周辺の詳細案内 利用上マナー等		
	誘導ポイントごとに配置	滞留拠点やアクセス拠点中心に適宜配置		
	(イメージ) 	(イメージ) 		
機能を補完するサイン	分岐板	距離標・境界標	その他のサイン	解説板
	コースの方向表示	距離・行政界の案内	近隣施設案内	見どころの解説・案内
	コースの分岐部に配置(路面表示を適宜併用)	1kmごとに配置 行政界に配置	コースから施設が分かりづらい場合に適宜配置	うみさとビュースポット等に配置
	(イメージ) 	(イメージ) 	(イメージ) 	(イメージ) 
注意喚起サイン	規制板			
	種々の規制・注意喚起	(イメージ) 		
	規制や注意喚起が必要な場所に配置 (路面標示を適宜併用)	(路面標示) 		

交差部には、十字交差点や立体交差など、いくつかのパターンがあります。
それぞれのパターンに合わせた案内誘導板の配置の考え方を示します。



デザインの統一

詳細:ガイドライン本編 P31

- ・うみさとの風景にとけ込むスケール感とする。
- ・丸みを帯びた柔らかい形状とする。
- ・青色(コバルトブルー)を基調とした色彩とする。

情報の集約と充実

詳細:ガイドライン本編 P31

- ・情報を厳選し、一つのサインに収める。 ⇒ 利用者が情報を取得しやすくなり、景観も良くなる。
- ・必要な情報を必要なタイミングで伝える。 ⇒ 利用者がストレスなく目的地に導かれる。
- ・周辺の情報を充実させる。 ⇒ コースとまちの回遊性が向上する。

ユニバーサルデザイン

詳細:ガイドライン本編 P31

- ・文字や図が視覚的に分かりやすく、誰にとっても見やすいデザインとする。
- ・原則すべての情報を2カ国語表記とする。地名はルビ表記も併用とする。

書体

詳細:ガイドライン本編 P32

- ・視認性の高いゴシック体(英文はサンセリフ系)とする。推奨フォントは和文は BIZ UDP ゴシック、英文・数字は Frutiger(フルティガー) または Myriad(ミリアド) とする。
- ・総合案内板の周辺案内の文章は、可読性の高い明朝体(英文はセリフ系)とする。推奨フォントは和文は BIZ UDP 明朝、英文・数字は Times New Roman とする。
- ・既定の横幅に文字が入りきらない場合で、レイアウト上やむを得ない場合は、長体 80% まで許容する。ただし「()」括弧や「・」中黒など記号類がある場合は、可読性を損なわない範囲でカーニングをおこない、文字の長体化はできるだけ避ける。

文字の大きさ

詳細:ガイドライン本編 P33

- ・視距離に応じた文字高さを設定する。
- ・自転車の走行速さを考慮し、主要な情報は文字高さを 1.5 倍程度とすることを検討する。

色彩

詳細:ガイドライン本編 P34

基調色

- ・うみさとの青系のイメージに即しつつ、コントラスト比が確保できる色の組合せとして、コバルトブルーの基調色+白文字を採用する。
- ・白文字は視認性を高めるためにドロップシャドウをつける。

文字・矢印・ピクトグラム

- ・ゴシック系の文字は、視認性を確保しつつ柔らかい印象をもたせるため、ダークグレー色(K85%)を採用する。
- ・総合案内板に用いる明朝体、セリフ体の文字は可読性を考慮し黒(K100%)とする。
- ・規制系の表示内容に使用する色は、指示系:青、注意:黄色、禁止:赤とする。

その他

- ・ロゴマーク等は上記の規定によらず、各ロゴマークの使用規定に則るものとする。

ピクトグラム

詳細:ガイドライン本編 P35

- ・休憩施設等の情報をひと目で理解できるよう、案内用図記号(ピクトグラム)を効果的に併用する。
- ・ピクトグラムの大きさは35mm角以上とする。

矢印

詳細:ガイドライン本編 P36

- ・矢印とピクトグラムを組合わせる場合は、基準枠を合わせる。
- ・矢印と文字と組み合わせる場合は、原則、基準枠と文字高さを合わせる。

ロゴマーク・市章

詳細:ガイドライン本編 P37

- ・使用規定に準ずる。

個別サインのデザイン(構造・形状、記載内容)・設置場所

ガイドライン本編にて、デザイン(構造・形状、記載内容)および設置場所の考え方をサインごとに示しています。該当するサインの設置者は、以下の本編ページを参照して、デザインおよび設置場所を検討するものとします。



【総合案内板】

デザイン詳細
ガイドライン本編
P42.43

設置場所詳細
ガイドライン本編
P60.61

【案内誘導板】
(交差部型)

デザイン詳細
ガイドライン本編
P44.45

設置場所詳細
(交差部型)
ガイドライン本編
P62.63
(標準型)
ガイドライン本編
P64.65

【案内誘導板】
(標準型)

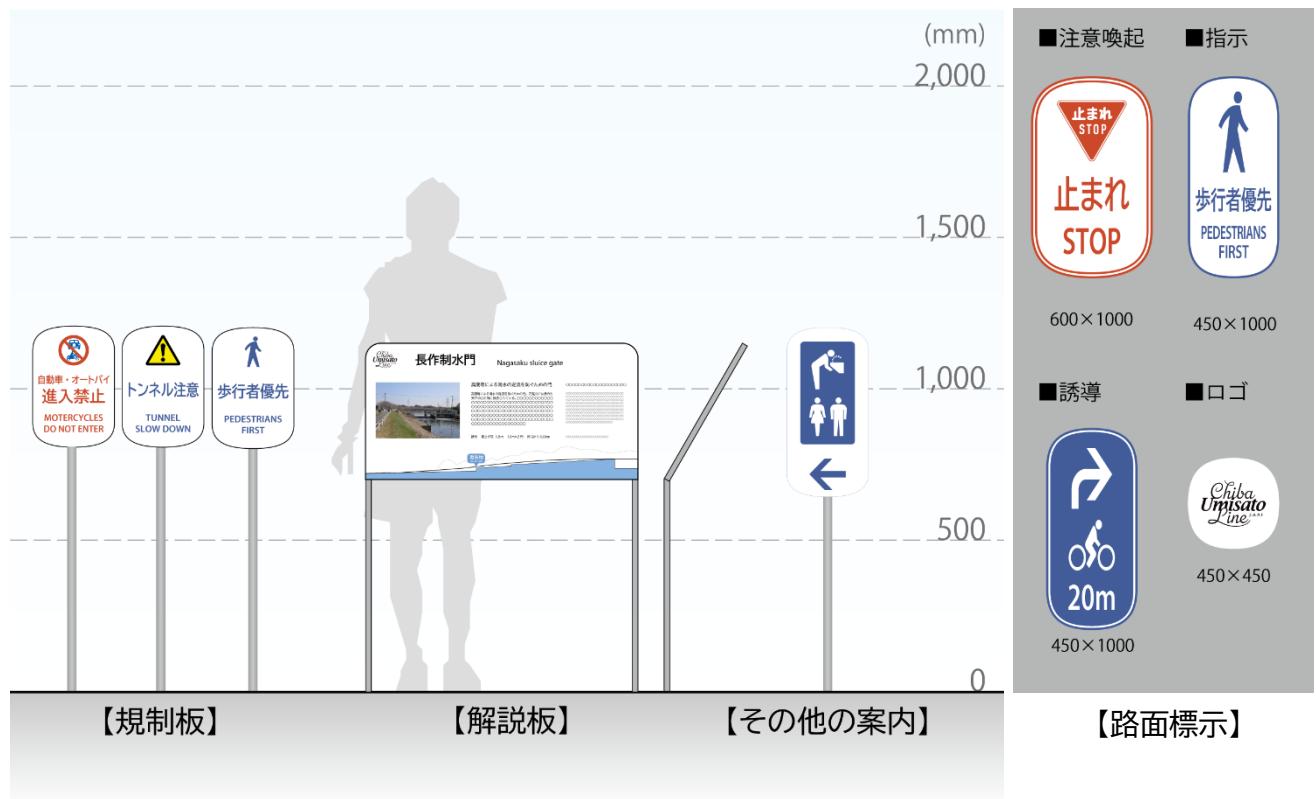
デザイン詳細
ガイドライン本編
P46.47

設置場所詳細
ガイドライン本編
P66.67

【分岐板】
【距離標・境界標】

デザイン詳細
ガイドライン本編
P48.49

設置場所詳細
ガイドライン本編
P68.69



デザイン詳細

ガイドライン本編

P50.51

デザイン詳細

ガイドライン本編

P52.53

デザイン詳細

ガイドライン本編

P56

デザイン詳細

ガイドライン本編

P54.55

設置場所詳細

ガイドライン本編

P70.71

設置場所詳細

ガイドライン本編

P72.73

設置場所詳細

ガイドライン本編

P74.75

サインの応用展開

サイン整備にあたり、本ガイドラインに記載の原則を遵守しながら、整備するサインを活用していく方法や、サイン整備を契機に展開していく方策として、以下のような例が考えられます。

応用展開の方策

サイン整備との連携内容

サインと連動した
滞留拠点整備

総合案内板や解説板を設置する際に、空間に余裕があれば、滞留拠点としての機能付加を検討する

情報発信媒体
との連携

サイクリングマップやうみさとのポータルサイト等に
サインの内容を反映し連動を図る

ICT 技術を活用した
情報案内

サイン内に二次元コードや AR アイコンを表示することにより、デジタル上での情報案内も検討する

民間施設等への案内誘導
・
ブランドステッカーの配布

民間施設等でも設置してもらえるよう、サインと
統一されたデザインのステッカー配布を検討する

整備に向けたスケジュール(案)

サイン整備の実現に向けては、「印旛沼・印旛放水路かわまちづくり計画」に基づく水辺拠点の整備を令和10年度までに行うこととしているため、これに併せて、サイン整備についても令和10年度の整備完了を目指します。

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
サイン計画作成			● ● ● ●	随時 ブラッシュアップ	● ● ● ●	● ● ● ●
サイン整備						

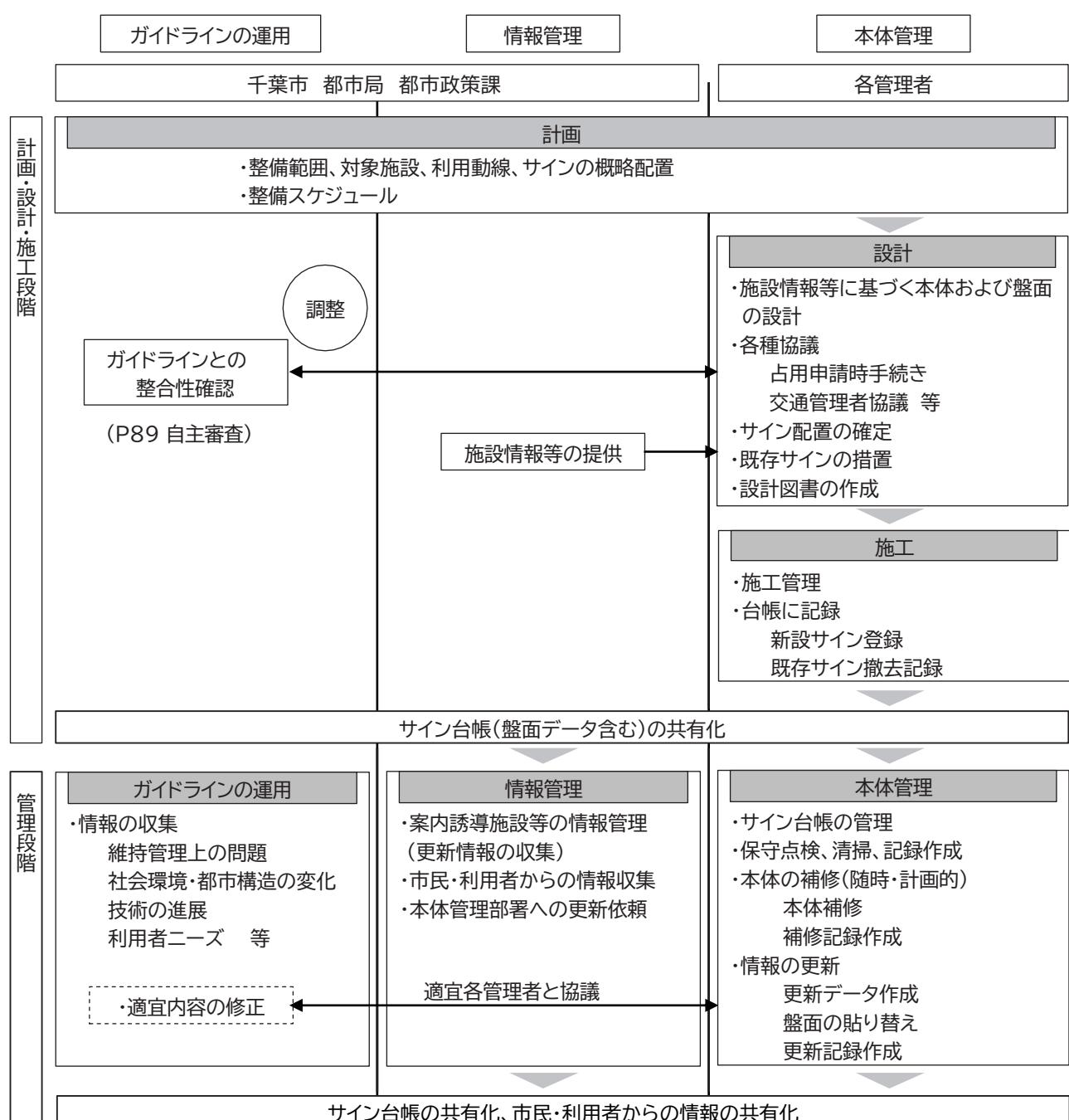
整備完了(予定)

整備に向けたスケジュール(案)

システム化されたサインの整備にあたっては、一度整備して完了ではなく、整備したサインを適切に管理していくことも重要です。

本ガイドラインの適用範囲(1-2参照)に示されるサインについて、対象を「ガイドラインの運用」「情報管理」「本体管理」に分け、担当部署と役割分担を設定した組織的かつ一元的な管理運用体制を構築します。本ガイドラインでは、千葉市における体制を示します。

また、千葉市区間のみならず、千葉うみさとライン協議会への定期的な報告および意見照会を行い、3市共通での管理運用を図ります。



管理運用体制イメージ

千葉うみさとライン(花見川サイクリングコース)サインガイドライン 概要版
令和7年10月

発 行 千葉市都市局都市政策課 かわまちづくり班
住 所 千葉県千葉市中央区千葉港1番1号
千葉市役所高層棟4階
電 話 043-245-5299